新制度における教育課程案

はじめに

新制度の学習指導要領が今春発表されたことにより，編集部でもこれらの研究がより活発なものとなってきました．とりわけ，教材を編集する上では，実際に編成されるであろう教育課程を想定しなければならず，新しい教育課程の検討は必要不可欠なものとなっています．

教育課程原案

教育課程を考える上では，第1に科目構成およびその内容の研究が必須の事項となりますが，ここでは紙面の関係からそれらには触れず（詳しくは本誌No. 6を御参照ください），現在，編集部で考察している教育課程原案を，順次述べていきます．

まず，現行制度において，理系は数学IIを除く全科目，文系は数学II，微分・積分を除く全科目を履習する場合を想定したものが，次のパターンIです．

パターンI

1年	2年	3年 (理系)	3年 (文系)
数学I（4）	数学II（3）	数学III（3）	数学（3）
数学A（2）	数学B（2）	数学C（2）	

＊（　）内は単位数を表し，3年次文系の3単位は，基本的に選択科目より3単位分を履習．以下同じ．

ただし，これは標準単位数通りに各科目を各学年にあてはめたもので，実際には，以下の理由により若干異なったものになると考えられます．

① 家庭科が必修となることに伴い，1年次に6単位時間を数学に充てることができるか．

② 数学Iにおける4単位時間は，かなり余裕のある指導が可能ではないか．

③ 数学Bは内容が多く，3単位時間ほど必要ではないか．

④ 数学A，B，Cにおいては，それぞれ4つの内容からの選択ということで，それら選択する内容によって，指導時間に差異を生じるのではないか．

そこで，これらの事柄に鑑み，Iに修正を加えたものが，次のパターンIIおよびIIIとなります．

パターンII

1年	2年	3年 (理系)	3年 (文系)
数学I（4）	数学II（3）	数学III（3）	数学（3）
数学A（1）	数学A（1）	数学B（1）	
	数学B（2）	数学C（2）	

パターンIII

1年	2年	3年 (理系)	3年 (文系)
数学I（3）	数学II（3）	数学III（3）	数学（3）
数学A（2）	数学B（3）	数学C（3）	

なお，2年次から理系，文系に分かれる場合を想定したものが，次のパターンIVとなります．

パターンIV

1年		2年	3年
		数学II（3）	数学III（3）
	(理系)	数学A（1）	数学B（1）
数学I（4）		数学B（2）	数学C（2）
数学A（1）	(文系)	数学II（3） 数学A（1）	数学B（2）

次に，現行制度において，理系，文系の区別なく数学I，数学IIのみを履習する場合を想定したものがパターンVです．

パターンV

1年	2年	3年
数学I（4）	数学II（3） 数学A（2）	

なお，上記Vについては，科目が少ないため，単位数を増やすことや，年度にまたがる継続履習も可能なことから，弾力的な運用が考えられます．

おわりに

上記の案についても，検討すべき点が多々残っていると考えられます．

より現実的な教育課程案を目指し，種々の御意見，御指導をいただければ幸甚に存じます．

（編集部）